

生涯学習・社会教育関係職員研修講座【新任職員研修後期】

令和8年2月19日(木)10:00~15:00 青森県総合社会教育センター 受講者39名

1 内容

【テーマ】「学びを通じた地域づくり」
～社会教育職員に期待される役割とは～

【講師】弘前大学 教育学部

准教授 こしむら やすひで
越村 康英 氏



【経歴】

2001年度から11年間にわたり、東京都大田区および北区の教育委員会で社会教育指導員として勤務され、区民大学、日本語教育、家庭教育学級、ジュニアリーダー研修会など幅広いプロジェクトに携わる。その経験を活かし、2020年10月から弘前大学教育学部の准教授として教育・研究活動に従事。また、青森県生涯学習審議会委員、青森県社会教育委員、弘前市社会教育委員など社会教育の推進に尽力している。

【講義要旨】

- 社会教育とは、よりよい「暮らし」と、その基盤となる「地域」「社会」を創造するために、私たちが相互主体的に行う学習活動です。
- 憲法の理想を人々の生活に根付かせるために、社会教育において重要視すべきことは、「平和教育」、「主権者教育（自治の力を育む学び）」、そして「人権教育」の3つです。
- 遊子川地区における「地域づくり」の事例から、「地域づくり」と「社会教育」は、公民館の日常的な活動を通じて、住民同士のつながりや共同性（ソーシャル・キャピタル）を育み、それが「地域づくり」の基盤となっていることがわかります。
- 「こどもまんなか社会」実現には、こどもの意見と最善の利益を尊重し、脆弱性に配慮した社会教育の整備が必要です。こどもの声を反映する教育事業や学校運営協議会への参画を促し、地域の課題を共有し解決する共同的な学びを組織することで、こどもの主体性を尊重する社会を目指していく必要があります。
- 家庭教育や学校教育を含む社会教育の役割として、子育て文化を市民に広め、すべての人が「社会的親」としてこどもを育て支える社会の実現を期待したいです。

2 受講者の感想

- ・自分の役割を見直すよい機会になりました。対象は誰なのか、何のために実施するのか、実施したことによって、どんな成果、変化が期待できるのか、しっかり考えをもって、事業を企画・運営していこうと思いました。
- ・3つの観点について、演習・対話・講義の流れで、大いに考えを深めることができました。特に「地域づくりとはなにか?」「事業と地域課題解決の関わり」「こどもの意見を反映する社会教育」「AARサイクルの考え方」等々、大変参考になりました。